



# 真生会富山病院

## 地域連携だより

第5号

2013年11月発行

〒939-0243

富山県射水市下若 89-10

TEL 0766-52-2156

FAX 0766-52-2197

<http://www.shinseikai.jp/>



### 院長挨拶「笑顔のあふれる病院に」

10月1日付けで真生会富山病院院長に就任いたしました真鍋恭弘です。記録的猛暑による熱中症被害、大型台風による災害など暗いニュースが記憶に新しい2013年でしたが、2020年の東京オリンピック招致決定で披露された「おもてなし」は、日本が誇れる文化を世界に発信できた好例でもありました。

少子高齢化とそれに伴う医療費の増大、終末期医療のあり方など、医療界は重い課題に直面していますが、人類共通の課題に日本の医療界がどう取り組むのか世界が注目しています。この難局にあたり大切にせねばならないのは、日本人のおもてなしの精神であり、思いやりの心ではないでしょうか。思いやりとは、相手の立場に立つ気遣いであり、仏教で教えられる利他の精神です。



院長 真鍋恭弘

患者、家族、医療職者それぞれが互いを思いやるのが、難局打開の扉になるのではないかと思います。

当院は病院となって、まだ15年に満たない若手病院ですが、大きな特徴は、夜7時までの外来診療、全国でも稀なアイセンター、また医師、看護師、リハビリスタッフによる在宅医療です。入院病床数は99床で、連携医療機関のご協力により7対1看護の急性期体制を維持しています。これからも、どのように地域医療に貢献できるのか、ニーズを敏感にキャッチし、本当に望まれる病院に常にならなければならないと思います。しかし、提供する医療体制がどのように変わっても、思いやりの心を大切にし、笑顔のあふれる病院をつくって行きたいと考えています。

連携機関の諸先生、皆様方には、引き続き倍旧のご厚情を賜りたく、よろしく願い申し上げます。



24時間救急診療体制

## 「第2回地域連携交流会」を終えて

今回、第2回の開催を迎えた地域連携交流会は、射水市内の介護支援専門員（ケアマネジャー）が39名、当院からは医師、看護師、栄養士、医療ソーシャルワーカーが31名と、昨年にも増して大勢の参加がありました。

今年は医学講座のテーマに「糖尿病」を取り上げました。内科の平谷和幸医師より「在宅糖尿病患者の治療とケア」の講義で糖尿病患者の困難事例の紹介の後、糖尿病療養指導士としてその患者に関わった松田看護師、今城看護師さん、宮本看護師が発表しました。

ケアマネジャーの方々からは「病気を理解することが難しい患者に対し、根気強く治療し、食事管理への理解もできるようになってきた例を知ることができた」「糖尿病療養指導士がいることですごく安心だと思った」との感想を頂きました。

後半はケーキと紅茶で寛ぎながら、ケアマネジャーと医師、看護師などが小グループに分かれグループワークを開催しました。和やかな雰囲気が進み、最後にまとめとしていくつかのグループに発表してもらいました。発表の中で挙げた質問に対し、その場で医師から返答があり、また、ケアマネジャーからも意見の応酬があり、大いに盛り上がりました。

「病院へ直接、感謝や意見を言う場面を設けてもらえるのは本当に有難く、今後もっと回数を増やしてもらいたいくらい。本当に勇気づけられた」との感想も頂き、昨年より、ケアマネジャーと真生会との距離が縮まった交流会でした。

（医療福祉相談室主任 医療ソーシャルワーカー 阿部素子）



平谷医師の講義



糖尿病療養指導士の発表

### ＊糖尿病療養指導士の活動内容＊

- ・糖尿病教室の開催（基本的には第2、第4水曜日の16時30分～18時まで開催）
- ・糖尿病看護相談（フットケア、療養指導など）

今回、初めて交流会に出席いたしました。私のグループは、ケアマネジャー4名、医師、病棟看護師、訪問看護師の7名でした。ティータイムでは美味しいケーキを頬張りながら、楽しい雰囲気でお話が弾みました。

「真生会富山病院と連携する上で良かった点と困った点」というテーマのグループワークではケアマネジャーの方から生の意見を聞くことができました。利用者さんはこのようなことで悩み、ケアマネジャーさんが対応に困ったケースもあったのかと実感することができました。良かった点では、地域連携室に相談すると対応が早く助かるといった内容や、訪問看護ステーションところからアドバイスが入り助かるといった意見を頂き嬉しく感じました。

在宅ケアでは利用者の方がご自宅で過ごしやすいうように生活の場を支えるため、ケアマネジャーと連携を取りながらサポートする場面が多くあります。連携をとる上で欠かせないのは、やはりコミュニケーションだと思います。日頃からコミュニケーションをスムーズにとっていくことで、いざというときも気軽に相談や報告、連絡がしやすくなります。

今後も交流会においてケアマネジャーと顔見知りとなり、良好な関係を築いていくことがよりよい地域連携に繋がると感じました。

(訪問看護ステーションところ 看護師 山本智子)



グループワークで意見交換



話し合った内容を発表

## 第2回真生会富山病院健康セミナー開催

平成25年7月13日(土)、「アイザック小杉文化ホール ラポール」にて第2回真生会富山病院健康セミナーを開催しました。当日は多くの方にご参加いただき、ありがとうございました。

当院では地域への健康普及活動の一環として、今後も健康セミナーを企画して参ります。



## 部署紹介 総合受付

来院された方に最初と最後に対応するのが、私たち総合受付のスタッフです。一人一人が「真生会の顔」という自覚を持ち、笑顔で親切・丁寧に対応することを心がけて受付・会計業務を行っています。

初めて受診される方には、まず総合受付前のカウンターにある診察申込用紙に必要事項を記入のうえ、保険証を提示して頂き、診察券を発行します。初めての方も安心して受診して頂けるよう、フロアマネージャーが受診のサポートを行っています。再診の方は月初めに総合受付で保険証をご提示のうえ、混雑緩和のために総合受付前にある4台の受付機をご利用頂いています。

総合受付では「どの科を受診したらよいかわからない」という質問をよくお受けしますが、看護師と連携して適切な診療科を案内できるよう努めています。

会計は平成24年6月より、番号呼び出しを開始しました。従来のお名前での呼び出しを気にされていた方からは好意的なご意見を頂いています。会計窓口では診療費に関するご相談も随時お受けしています。患者さんがスムーズに受診し、気持ちよくお帰り頂けるよう、今後とも患者サービス向上に努めていきたいと思っております。



## 委員会活動 環境整備委員会

環境整備委員会では、院内環境に関する課題に対して、病院全体の統一した考え方に合わせ、安全性、機能性、快適性、経済性、社会性の視点から検討、改善を行っています。毎月一回、施設管理室、物品管理室、庶務課、P T S推進室のメンバーと院外の有識者を交えて、課題の検討や、実施したことの妥当性について確認をしています。



### 【これまでに改善を行った事例】

- ・病棟個室のソファが傷んできた⇒病室にふさわしいソファに交換
- ・トイレブース内に荷物台があると便利⇒荷物台を製作して設置
- ・病棟個室のドアが重くて開けにくい⇒ドアチェックを開けやすいものと交換
- ・整形外科前の波型ベンチが硬くて座りにくい⇒座面が柔らかいソファに交換
- ・車椅子トイレのカギの位置が低くて使いにくい⇒カギの位置を高くした